

## パネルディスカッション④：石筒氏

「高知県グローバル教育シンポジウム」 パネルディスカッション

テーマ 「国際的な視点をもって地域や国際社会で活躍できる人材とは  
～生涯学び続ける力を育む国際バカロレア～」

### ・パネラー

長谷川壽一氏（東京大学大学院総合文化研究科教授）

田宮 直彦氏（株式会社日立製作所人財統括本部人事勤労本部長）

松木 秀彰氏（文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室長）

石筒 覚氏（高知大学地域協働学部准教授）

長嶺沙綾子氏（IBDP 卒業生・サンディスク株式会社勤務）

### ・コーディネーター

坪谷ニューエル郁子氏（国際バカロレア機構アジア太平洋地区委員）

（コーディネーター）

さて、今日パネリストの1人として、地元の高知大学より石筒先生においていただいております。石筒先生、グローバルとローカル、いわゆる「グローバルな人材」、この高知の地域で認められているグローバル人材は、どのような人材のことを指しているのでしょうか。お話しいただけますでしょうか。

（石筒 覚氏）

今日、私がここにいますけど、高知代表というよりは、高知の関連した話をする役割かと思ひまして参加させていただいております。

私ももう高知に来て16、17年になるんですけども、一つはグローバル人材、グローバルというふうに考えたときに、これは外の人間として感じるのは、高知県もしくは土佐は、もともと歴史的にはグローバル人材の輩出県であったと。これは外の人の方がよく理解をしている。外で、東京とか、例えば大阪、京都、そういったところで活躍している人が多いんですけども、実は海外でも多い。既に、そういった人たちは歴史的に見ても、非常に多いという特徴があります。地元の方は余りそういった認識はないのかもしれませんが、よく見ると、よく東京で話をすると高知出身の人が多いいですね。ただ、イメージがどうしても酒と結び付けられているケースが結構多いいんですけども、ただかなり多いということがあります。

なぜそういった人材が歴史的に多かったのかというのは諸説あると思ひます。四国を見ると他の3県というのは、どこを見ているかという本州を見ているんですね。本州の明かりを見て、そのエネルギーは今3本橋になっていま

すが、高知県の人はこちらかという山で遮られているので、太平洋ばかり見ていて、隣はアメリカ、アジアだという発想があると、よく酒飲み話しては言われたりしますが、これは反面、経済的には、実は3県の橋はそのまま経済の繋がりになっているんですが、高知県はそれが弱いので、今、高知県が知事のもとで産業振興計画を進めていますけど、そういった反面、難しい面もあるんですが、ただ視野、発想としてはグローバルということはそれほど違和感が、実は歴史的にはない土地柄だということです。

今回、私の方ではテーマに「グローバル」という表現が出ていて、これは高知大学の国際戦略の実はテーマにもなっているんですけども、基本的には地域と世界を結び付ける。もしくは、世界と地域を結び付けるという発想の中で最近こういった「グローバル」という表現が使われてきました。この、いわゆるグローバル人材の視点の中でやはり地域ということも重要だということは、これはもう明らかだと思います。先ほど長谷川先生のチンパンジーのお話がありましたけれども、実際に海外に出て動く現場は、やはりローカルになっていて、やはりローカルとローカルのいろんな繋がりがこのグローバルな中にはあります。そういった意味でこの高知県でいろいろ学んでいること、もしくは活動したり、いろんな動きというものが、全くそれが外と結び付かないということではなくて、やはりそういった経験、そこで得た視野というのは、グローバルの中でも十分役に立つということは理解できます。

地域で求められる「グローバル人材」ということで言いますと、実は先ほどまでいろいろ挙げられているものそのものだなというふうに改めて感じるんですけども、例えば、バカロレアのプログラムが求めている人材像というのが、実はお三方から出ているんですね。あとでまた見ていただきたいのですが、資料27ページ（長谷川様）と10ページ（松木様）と4ページ（坪谷様）に3度「学習者像」というのが出ています。これが、やはりバカロレアを考える際の非常に重要なポイントであると同時に、これをよく見ていただくと、地域で求められている人材像でもあるわけです。やはり、こういった学習をしてきた能力がある人たちをやはり地域が求めている。これも共通しています。先ほどの田宮さんのお話で、企業が求めているところもやはり繋がっていますので、そういった観点で考えますと、やはり地域で求められている人材。これは考えるとごくごく当たり前なのかもしれませんが、やはり地域で活躍できる人材というのは海外でも活躍できるし、海外で活躍した人は戻ってきてもやはり地域でもいろんなところで発揮できる場があるだろうというのは、端的には非常にシンプルですけども、人材像としては言えることかなと思います。

じゃあ地域で何ができるのか。これは恐らくこの後の話しにもなってくると思いますけれども、やはりきちっと地域のことを理解するということが重要になってくるだろうと思います。難しいのは一度異文化の中に身を置くと、より

自分の文化のことに関心が湧くということも出てきますので、そう言った意味では、非常に速い段階でやはり異文化、外国文化というものを体験するのが重要だと思いますけれども、なかなかそれは、例えば小さいころからやるのは難しいとなると、やはり、非常に身近な地域社会をきちんと見る目、体験することというのが、基本的には重要なことかなというように考えています。それは長い目で見なければ、もちろんなりませんけれども、なかなか自分の周辺のことを理解できない場合は、海外に行ったから周りがパッと理解できるかというと、やはり必ずしもそういうことにはなりませんので、身近な人間関係、地域社会のことを、早い段階から理解するということが重要になるだろうと思います。

その意味では、学校現場だけではなくて、今日、保護者の方も多数お見えになっていると思いますけれども、やはり日々の生活の中で将来的なグローバル人材の種というのはたくさんあるだろうと思います。今起きていることが、やっぱり日常の会話の中で話をされたりということもあるだろうと思います。

先ほど大学生が新聞を読まなくなった。高知大生も高知新聞をあまり読んでいないというのは、実はデータとして出ています。高知新聞だけでなくいろんな新聞を読んでいないんですが、実は大学生が新聞を読んでいないのではなくて、その下の世代の高校生・中学生もやっぱり読んでいないと、大学を出た後も読んでいないという状況があります。これは、どちらかという和学校現場の取り組みというよりは、地域に対する関心、社会に対する関心、国際事情に対する関心というのを割と早い段階から身に付けていかないと、いきなり大学生になって「新聞読め」と言われても、今はインターネットでたくさん情報が入ってきますので、どうしてもそういったところではいいのではないかというふうに思ってしまいがちなんですが、やはり実際にいろんな社会問題・地域の課題に対して関心を持っていると、それだけでは十分な理解はできないなという中で、やはり新聞ということは出てくるだろうと思います。もちろんテレビのニュースでも一緒でしょうし、本も一緒だろうと思います。

こうやって話をすると、これはグローバル人材と離れたようにも見えるんですけども、やはり身近なことに対する理解を深めていくという、これはもしかしたら学びのトレーニングかもしれないんですが、そういったことは今からでもできることだろうと思います。

そこがあって、先ほど学習者像がありましたけれども、実はこの後から出てくるアクティブ・ラーニングという枠組みの中で、そういった若い世代が集まって意見をぶつけあったり、いろいろ一緒になって考えたりということがだんだんできるようになって、より学びが深まっていくということもあるのかなと思います。

恐らくそんな感じになっていけば、海外に行ったときには十分外国の人と話

#### パネルディスカッション④：石筒氏

をしたりすることは、言葉の問題はちょっと別かもしれませんけども、どういう思いでいるのかとか、何を考えているのかという問われ方に対しては、きちんと答えることができる。言葉はなかなか通じなくても思いを持っていれば、これは通じるということがありますが、逆にそれがないと難しい。多くの場合、それがなくて海外にいて恥ずかしい思いをした。やはり、なかなかうまくいかなかったという経験で戻ってきて、実は今、日本に帰ってきて深めようかなというスタイルがこれまでは多かったと思うんですけども、今後を考えると、恐らくそういった体験でもいいと思いますが、もう少し早い段階からいろんな学び方を踏まえて、そういった地域の理解、きちんと物事を深く考えて探究して、コミュニケーションをとっていく。そういったことができるのかなと思います。

なかなか、その地域で求められる人材は何かというと、まとめることは非常に難しいですけれども、これまで学校現場でやってきたことが、今、少しずつ変わってきています。どう変わろうとしているのかということに、実はこのバカロレアの学習者像というのが大きなヒントになっていると思いますし、大学は、もう既にこういった人材を求めるということを掲げているところがほとんどだろうと思います。これはなぜかというと、産業界が既にそうだからという、直結の部分が10年位前から出てきていますが、でもなかなかそれが入試制度まではいっていなかったんですが、今後そこまで含めて変わってくるというのが今後の流れになるのかなと思います。

(コーディネーター)

石筒先生ありがとうございました。